

名 誉 会 員 推 挙

和 泉 公 比 古 殿

略 歴	元 首都高速道路株式会社 常務執行役員 1973年3月 名古屋大学工学部卒業 1973年4月 首都高速道路公団 入社 2001年5月 同 神奈川管理局 保全部長 2003年5月 同 保全施設部長 2005年9月 首都高速道路株式会社 保全・交通部長（民営化・組織改編） 2008年7月 同 西東京管理局長 2010年6月 同 常務執行役員 2013年6月 同 退職 2013年6月 首都高メンテナンス西東京株式会社 代表取締役社長 2014年2月 早稲田大学 博士（工学）取得 2018年6月 首都高メンテナンス西東京株式会社 顧問 2019年6月 同 退職
本工学会歴	正会員（1991年4月より現在に至る） 理事（2005年～2013年）
主な表彰歴	P C 技士委員会，P C 技術講習会委員会，P C 工学会賞選考委員会委員を歴任 1992年 プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）受賞
主な業績	P C 技術の普及と発展に貢献（損傷した既設P C 桁に対する外ケーブル補強の耐荷力について実験的・解析的検討および効果の定量的評価に関する研究），高速道路構造物の維持管理を適切かつ効率的に実施するための維持管理マネジメントの提案，本工学会の運営発展に貢献

佐 藤 卓 夫 殿

略 歴	元 株式会社建研 常務取締役 1972年3月 福井大学工学部建築工学科卒業 1972年4月 不動建設株式会社入社 中央研究所 開発室 1976年4月 フドウ建研株式会社 シルバークール事業部技術課出向 1985年10月 同 東京支店設計部技術グループ 1999年4月 同 取締役 技術本部副本部長 2004年4月 同 常務取締役 事業部事業部長 2005年4月 同 常務取締役 東京支店支店長兼事業部事業部長 2013年4月 株式会社建研(2006年10月社名変更)常務取締役 営業本部副本部長 2013年6月 同 退職 2013年6月 新日本建設株式会社 監査役 2022年6月 同 退職
本工学会歴	正会員（1984年7月より現在に至る）
主な業績	P C 建築技術の普及と発展に貢献（福島県あづま総合運動公園野球場(PCaPC造，P C 段床の振動測定），サカタのタネ本社ビル(PCaPC造，現場P C 梁の不静定応力の測定），県立ぐんま天文台（外皮曲面P C パネル），なら100年会館（PCa部材による初のパンタドーム構法）），P C スタジアム工法の開発および普及

浜原正行 殿

	元 日本大学理工学部海洋建築工学科 教授
略 歴	1981年3月 日本大学大学院理工学研究科博士後期課程建築学専攻終了 1982年4月 日本大学理工学部建築学科 助手 1990年4月 日本大学理工学部海洋建築学科 専任講師 1997年4月 日本大学理工学部海洋建築学科 助教授 2006年4月 日本大学理工学部海洋建築学科 教授 2015年3月 日本大学理工学部 退職 2015年4月 日本大学理工学部海洋建築学科 特任教授 2016年4月 日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻非常勤講師（現職）
本工学会歴	正会員（1979年11月より現在に至る） 理事（2012年～2013年） P C技士委員会試験問題小委員会，P C技術講習会委員会，P C工学会賞選考委員会委員を歴任
主な表彰歴	1984年 プレストレストコンクリート技術協会賞（論文部門）受賞
主な業績	P C部材の復元力特性に関する評価式の提案（降伏剛性低下率，履歴モデル，終局限界部材角，残留変形率），P C部材のせん断特性に関する評価式の提案（終局せん断耐力，せん断余裕度と保証部材角の関係），P C有孔梁の設計法の提案，P C造柱梁接合部の設計法の提案

平岡慎雄 殿

	元 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 審議役
略 歴	1973年3月 早稲田大学理工学部土木工学科卒業 1973年4月 日本国有鉄道 入社 1984年3月 同 水戸鉄道管理局 総務部企画室長 1986年2月 日本鉄道建設公団（現鉄道建設・運輸施設整備支援機構）入社 1991年8月 同 北陸新幹線建設局 計画課長 1996年5月 同 北陸新幹線建設局 次長 2000年3月 同 設計技術室 調査役 2003年3月 同 設計技術室 室長 2005年3月 同 審議役 2006年3月 同 退職 2006年4月 株式会社鴻池組 土木事業総括本部 顧問（現職）
本工学会歴	正会員（1978年1月より現在に至る） 理事（2000年～2005年） P C技士委員会，P C技術講習会委員会，P C技術協会賞選考委員会委員を歴任
主な表彰歴	2002年 土木学会第48回構造工学シンポジウム論文賞受賞
主な業績	P C技術の普及と発展に貢献（新幹線初のP C斜張橋（北陸新幹線第2千曲川橋梁），新幹線初のエクストラドーズド橋（北陸新幹線屋代架道橋），鉄道橋初の波形鋼板ウェブ橋（北陸新幹線黒部川橋梁）実現に尽力，新幹線特有の高サイクル疲労問題に対して耐疲労性状の高い接合部の開発），本工学会の運営発展に貢献

（五十音順）